

# 利實翁没後百年記念射会のお知らせ（最終版）

一般財団法人 本多流生弓会

記念射会実行委員会／勝俣俊一，杉山 卓

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。標記行事については9月9～10日の両日に実施する旨のご連絡を申し上げておりますが、いよいよ実施日が近づいて参りました。既にアンケート調査を行い、参加希望等を調査しましたが、参加希望者は100名/日を大幅に上回る水準であることが概ね掴めましたので現在射会の実施内容を具体的に検討している状況です。今後多少の変更は生じる可能性があります、ようやく実施内容の概要をお知らせできる状況になって参りましたので、その内容をお知らせいたします。下記及び別添資料をご熟読いただき、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

つきましては、同封のアンケート葉書に必要事項をご記入の上ご返送いただきますようお願い申し上げます。事前準備のためのアンケート調査は今回が最後となる予定ですが、準備の都合上必要な情報はできるだけ早く入手する必要があります。**返送期限は7月10日(必着)**でよろしくご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

## 記

### 1. 日程

記念射会は**9月9(土)～10日(日)の二日制**（開始時間が異なりますのでご注意ください）

**9月 9日**：利實翁没後百年記念射会の開始時間は**10時**

**9月10日**：利實杯争奪記念射会の開始時間は**9時30分**

### 2. 会場

両日ともに**明治神宮／中央道場**（全館貸し切り）

- ①開場は原則9時ですが、両日ともに8時半位には入場できる予定です。特に初日は受付が混雑する可能性がありますので早めにご来場下さい。
- ②会員用の受付は2階の階段横のスペースに設置します。会費の納入及び記念品配布を行います。参加人数が多いので、混乱が起きないよう係員の指示に従っていただくようご協力下さい。
- ③受付で「**参加章のリボン**」を発行しますので袴の右腰に着用をお願いします(リスク管理)。
- ④更衣室は、**男子用として「小講義室」、女子用は常設の「女子更衣室」を使用します。**  
**大講堂は食事の会場として使用しますので、更衣室としての使用はいたしません。**
- ⑤更衣室の施錠はできません。最近盗難事件等の発生もありますので、貴重品の扱いについてはご自身でお願いします(自己責任)。

### 3. 会費

- ①参加費として1000円/人、日（両日参加の場合は2000円/人となります）。
- ②弁当代として1000円/人、日（両日参加の場合は2000円/人となります）。  
※両日参加の場合は、合計金額を9月9日に「受付」にて徴収します。釣銭のないようご準備下さい。
- ③受付完了時に記念品引換券をお渡します。受付横の記念品交換所にて引換券を提示して引換えて下さい。
- ④第一日目の射会終了後の懇親会にご出席の方は別途5000円をお預かりします。

### 4. 開催要領（運行の詳細については別紙「**式次第（予定）**」及び「**一手射礼の実施要領**」を参照のこと）

#### 【 第一日目（9月9日） 】

開会式が済みましたら直ぐに演武を行い、その後会員の一手射礼(正式射礼)に入ります。

参加者が多いので運行等についてのご協力をよろしくお願い申し上げます。

尚、別紙1の「式次第」については詳細の詰めを行っている過程なので、変更になる可能性があります。

- ①射礼は3人を1組とし、組立射礼を行います。射場を三分割し、同時に進行します。

尚、当日はかなりの暑さが予想されますので、各組毎に控（=介添）をつける予定です。

#### ②食事

本部が一括で発注し、大講堂前に準備します。各自が弁当とお茶を持って大講堂内で食事して下さい。

尚、進行の都合で全員が揃って食事時間がとれない可能性があります。係の指示に従って下さい。

### ③服装

**第一日目は正式射礼を行いますので和服**（派手でないものであれば可）をご準備下さい。但し、**胴着はご遠慮下さい。**

### ④立ち順

アンケート結果に基づいて本部が立ち順を決定し、射場前に掲示しますのでご自身で確認して下さい。

できる限り支部別、坐射・立射別等で整理したいと考えておりますが、ご希望に添えない場合もあると思っておりますが、悪しからずご了承下さい。

## 【 第二日目（9月10日） 】

①入館～受付体制は9日と同様です。

②開会式終了後、赤門支部による「東大鳴弦」の演武を行います。

それに続いて競射へと続きます。

③**服装は胴着で結構**です。

④立ち順は射場前に掲示しますので、ご自分の立ち順を確認して下さい。

⑤競技は個人戦で、12射（四矢×3回）の合計的中数で優勝を競います（表彰は1から5位と射技優秀賞あり）。同中の場合は当流恒例の年齢順（長幼の序）で順位を決定します。

## 5. 弓具の扱い

二日間の連続開催という事情から弓具の運搬が負担になると思われれます。今後道場側と詳細を詰めることとなりますが、道場に置かせてもらう方向で交渉する予定です。係員の指示に従って下さい。

## 6. 懇親会

第一日目の行事終了後、近くの会場に移動して懇親会を開催いたします。前回アンケート時の結果で多くの会員の皆様から出席のご返事をいただきましたので開催します。

会場は中華料理の「酔香楼」(宿泊予定のホテルニューワシントン内)を貸し切りで、飲み放題・食べ放題で会費5000円/人の予定です。射会終了後、会場への移動はバスになりますが、ご出席予定者は係員の指示に従って下さい。

## 7. 宿泊

最近の宿泊所事情が極めてタイトになっている状況に鑑み、ホテル(渋谷区神山町のホテルニューワシントン～NHK西口前)を仮抑えしてあります。料金は1万円程度になりますが、ご希望があれば予約しますので、アンケートにその旨ご返事ください。

但し、部屋はシングル、ツイン、和室のいずれかになりますが、ご希望に添えない場合もあります。悪しからずご了承下さい。

尚、今回のアンケートに基づき、ホテルの仮抑えは解除しますので、以降のご相談には応じられません。くれぐれも慎重に検討してください。

## 8. 写真・ビデオ撮影の扱い

最近射会等を簡単に撮影し、安易にサイトに投稿する例が多くみられます。今回の場合、**四世宗家の「鳴弦」につきましては「神事」であることを勸告し、撮影禁止**といたします。事情ご賢察の上、よろしくご協力をお願いいたします。尚、記念射会の映像につきましては専門家に委託して保存する予定で準備中です。

記念射会終了後にご希望があれば頒布することも検討します。

## 9. 予定の変更

間近になったとはいえ、記念射会までには予定の変更が生じる可能性があります。特に参加を予定していたが事情により欠席となった場合は、速やかに下記までご連絡下さい。弁当の予約や宿泊ホテルの予約との関係から連絡がないままキャンセルとなりますと、後日料金を請求させていただくこともあり得ますのでご注意ください。

【連絡先】記念射会実行委員会／勝俣俊一 メールアドレス:katumata@lake.ocn.ne.jp  
杉山 卓 メールアドレス:sgym@etude.ocn.ne.jp

以上

一般財団法人本多流生弓会

「利實翁没後百年記念射会」 式次第(予定)

総合司会：一般財団法人本多流生弓会／杉山卓業務執行理事

平成二九年九月九〜一〇日 於：明治神宮中央道場

【九日】

一〇：〇〇 開会式

神前礼拝 一般財団法人本多流生弓会理事長・四世宗家 本多利永

主催者挨拶 一般財団法人本多流生弓会理事長・四世宗家 本多利永

来賓(一)挨拶 明治神宮至誠館 館長 荒谷 卓

来賓(二)挨拶 公益財団法人全日本弓道連盟

※当日の行事案内・事務連絡

(記念撮影)

一〇：三〇 演武

「鳴弦」 四世宗家 本多利永

一一：〇〇 師範 大島善春

一一：二〇 「繰大前」 師範会 (北原, 濱田, 坂本)

「組立」(三組) 師範会 (西崎, 飯塚, 勝俣)

支部代表 欧州支部, 埼玉女子選抜

一二：〇〇

「特別演武―日置流雪荷派射礼」 日置流雪荷派同門会／小沼修一氏

※一二：三〇／昼食

一三：〇〇

「特別演武―管矢」 正法流紫鳳会／会長 土井春夫氏

一三：二〇〜一六：三〇

「一般会員射礼」(三人立×三組)

一六：三〇 閉会式

【一〇日】

九：三〇 開会式

神前礼拝と挨拶 理事長・四世宗家 本多利永

九：四五 「特別演武―東大鳴弦」 赤門支部

一〇：三〇

「利實杯争奪射会」

競技開始 (略式立射礼：四矢×3回＝一二射)

※競技終了次第「月並的(余興)」実施

一六：三〇 表彰式／閉会式

## 「利實翁没後百年記念射会」～【一手射礼の実施要領】

標記については既にお知らせした通り「正式組立射礼」で行ないます。当日は参加者も多く、円滑な運営をすることが求められますので正式射礼の運行の一部を変更して行うこととします。

以下の解説は変更点を中心に記載してありますが、「射礼解説書」を参照して運行を確認していただくようお願いします。

### 記

#### 1. 組立の概要

射場は12人立ちであるが、控の位置を確保するため3人立/3組で演武する。

#### 2. 射場への入場と以降の運行

① 入場は3組(3人立)9人が揃って、各組の各入口より一斉に入場する。

※入・退場口は4つあるが、前・二番・三番を使用する。

② 入場時の浅い礼は各組の先頭の射手(落)だけが行い、以降の射手はそのまま連続して入場し、各組の控(=定め座)に向かって進出する。

③ 各組は控に到着したら脇正面に向き直り、以降の所作は定法通り行う。

※上記③以降の所作・運行については定法通りであるが、弓を立て、矢番をして立ち上がり弓構までの所作は3組が出来るだけタイミングを合わせる事が望ましい。

#### 3. 行射終了から退場への運行

① 3人の行射が終了したら揃って控に戻り、定法通りの所作を済ます。各組が入場した出口より退場する。

② 退場口手前での浅い礼は落の射手だけ行う。

#### 4. 「失」の扱い

「失」には色々な事例があるが、その全てを記することはできない。先ず、「弦切れ」や「矢こぼれ」等の失が発生しないような準備をすることが肝要である。

※通常は控(=介添)をつけないが、当日は暑さ等を勘案し、各組に控(1名)を準備します。

失が発生した場合は以降の所作や行射を取り止め、自分の所定の位置の体配線に復して控え、肌入れ等の所定の所作を行う。他の射手の行射が終了したら3人で揃って運行に戻ることを原則とする。

※失は迅速な処理を最優先とし、臨機応変に対応する。

ここでは「弦切れ」と「矢こぼれ」について解説するに留めるが、処理が不明な場合は控(=介添)の指示に従う。

#### 【弦切れ】

切れ弦が射手の近くにあれば処理を行うが、遠い場合は放置する。

① 甲矢で弦切れをした場合、切れた弦の在り処が近い場合は跪座して乙矢を拾い上げ、場所を移動して、弓は左膝に置き、矢を右脇に置く。弦を左手に巻き、弓と合わせて左手に持ち、右手で乙矢を拾い上げ、元の射線に復する。切れ弦を懐にしまい、失を詫げる。立ち上がって体配線に戻り、所定の間合い(取懸)で肌入を行い、控線に戻って全射手の行射を待つ。

手持ちの乙矢は体配線で控えている時、右脇に置く(控が処理する)。

② 乙矢の場合も甲矢同様に切れ弦の処理を行い、射線に復して弦を懐にしまった後、定法通りに運行を進める。

#### 【矢こぼれ】

① 甲矢の行射で矢を落とした場合、跪座して先ず乙矢を拾い上げ、左手に弓と重ねて持ち替え、次いで態勢を低くしたまま矢の近くに移動して甲矢を拾い上げ、甲矢と乙矢を揃えて右手に持ち変える。射線に復して失を詫げた後、体配線に後退して跪座し、落とした甲矢を右脇に置く(控=介添が回収する)。

② 乙矢で矢こぼれの場合は、跪座して乙矢を拾い上げ、右手で矢を持ったまま射線に復し、失を詫げた後に体配線に復し、矢を右脇に置く。他の射手の行射が終了するのを待つ。

③ 落の射手は行射後の所作を射線で行うので、矢の処理が終わったら跪座して矢を右脇に置き、肌入れ等の所定の運行に戻る。

※想定外の失が発生した場合は控(介添)の指示に従う。